



まちのシンボル「ひと・まち・ゆめ」

# わが町 志津南 NEWS

志津南ホームページ

http://waka-kusa.net/

発行  
志津南地区自治連合会  
連絡先  
志津南市民センター  
(公民館) 563-6206

## 犬のフン害 もうたくさん



### 環境損なう垂れ流し

#### 周りの迷惑自覚して

休日や夜間に公園でリードを外して犬を遊ばせたり、リードをつけず散歩させている人もいますが、公の場所での犬の放し飼いは禁じられている行為です。条例は「快適な生活環境を達成するために公園などに飼犬の立ち入りを禁止することもできる」としています。1、2丁

#### ノラ猫のフン害も

一方で、ノラ猫のフン害も目だっています。最近、町内の有志の人たちが捕獲したりしてノラ猫は一時に比べずいぶん減ってきましたが、まだまだ多数のノラ猫が町内を闊歩、歩行者や家庭に糞尿の悪臭など大きな苦痛を与えています。各家もいる対策を講じておられますが、決め手となる方法が見当たらないのが現状です。

ノラ猫を根絶し、糞尿の被害、悪臭の苦痛から解放するため、次の事柄を守り良き隣人関係づくりに努めてください。

ノラ猫に餌を与えない。餌付けは飼育することになる。ノラ猫が棲みつきやすい小屋などを設置しない。猫は家の中で飼う。外へださないように。飼育には家の中のトイレで糞尿をするようにしつける。飼育には飼主を名札などで明示する。

## 平和祈念講演会に百人超



志津南地区社会福祉協議会(上田恒章会長)恒例の「平和祈念講演会」が10月10日(土)、市民センターで開催され、地域住民ら100人を超える参加者が耳を傾けました。写真。

今回は、ピアノ演奏家の浦晴子さんを講師に迎え、母から娘

へ託す平和への願い「ピアノ弾き語り」と題して、戦争の渦中で母が子に残した短歌に込められた平和への願いをピアノに載せて切々と訴えました。浦晴子さんのお母さん(浜田キミエさん、昨年5月死去)は太平洋戦争に出征、そのまま北の海で戦死した夫への思いを残しつつ、5人の子を必死に育て上げた思いを数多くの短歌に詠まれました。娘の晴子さんは残された300首を超える短歌の一首一首に曲を付け続け、それを「絶対に戦争は繰り返してはならない」というお母さんの命がけのメッセージとして各地で平和の尊さを弾き語りの形で訴え続けてい

## ふれあいお茶会にぎわう

「平和祈念講演会」に合わせこの日、「ふれあいお茶会」が催されました。

秋風に揺れるオミエエシを生け花に添え、作法にとられず気軽に、お菓子とお抹茶を用意したお茶席には講演会を聞き終えた方々が立ち寄りくださいました。お茶の心は「和敬静寂」

父の居ない哀しみと寂しさに、平和の思いをこめて訴えました。話を聞いた人たちは「自分も大事な人を戦争に奪われた。戦争の悲惨さ、無慈悲さを改めて感じました」と感想を洩らしています。(志津南地区社協)

「一期一会」といわれますが、まず「和」の一字のごとく、まさしく平和を再認識させる和やかな談笑風景がみられセンター内はゆったりとしたひと時が流れていました。今後このようなふれあいの場へどうぞお越しください。(ボランティアグループ 泉)

# 親子で収穫体験

## わんぱくがイモ掘り



で本格的な石焼きイモと蒸しイモにして試食会。「どちらがおいしい？」の問いかけに「石焼

## にぎやかにハロウィン

きの方があまい」「両方ともおいしい」。収穫と試食を満喫したあと、大きいのも小さいのも全部、市民センターへ持ち帰りました。12月にイモ版作りを計画しています。

「わんぱくブラザ南っ子」恒例のハロウィンパーティーが10月31日、市民センター（公民館）で開催され、志津南小学校生の1、6年生50人が参加しました。新型インフルエンザで4年生が学級閉鎖になったにもかかわらず、去年より多い参加者が集まりました。写真子どもたちはまず、健康推進員や保護者らの協力を得て野菜カレーと団子デザートをつくりました。食材はいずれも子ども

わんぱくブラザ南っ子・地域協働合校が10月17日、市内下笠町のあおばな館で5月に植えたサツマイモを収穫しました。この日は、5月の「食農体験」第2弾で、小学生38人と保護者や地域の協力者合わせて約60人が、バス2台に分乗して下笠町の「あおばな館」へ出かけ、サツマイモ掘りを楽しみました。写真

思ったより土が硬かったため、最初はスコップで掘ってからの移植ゴテを使って掘りました。「ほら、こんなに大きい」「ちよん切れた」などにぎやかな歓声とともに、次々に掘り出され、大豊作でした。イモ掘りのあと、大きなビニールハウスへ会場を移し、収穫したばかりのサツマイモをその場



「トリックオアトリート」と叫ぶと協力者が扮した4人の魔女が登場。子どもたちにお菓子を振る舞いました。最後はギターの伴奏に合わせてみんなで「手のひらを太陽に」と「幸せなら手をたたこう」を歌い、笑顔でパーティーを締めくくりました。

## 離乳食レストラン



志津南地区健康推進員連絡協議会主催の離乳食レストランが10月14日、志津南市民センターで開かれました。写真。生後4か月から10か月の赤ちゃんとお母さん16組の参加がありました。参加者は健康推進員が離乳食を調理している間は和室で保健師さんのお話を聞き、健康推進員ひよっこ委員会

のフェルトパネルを使って朝食の大切さと、バランスの良い食事について学習しました。このあと、調理室で初期（5〜6か月）中期（7〜8か月）後期（9〜11か月）の離乳食づくりを見学、熱心に質問しました。離乳食が出来上がると、お母さんと一緒に赤ちゃんも和室で試食しました。お母さんたちは「大きさ、柔らかさ、味の濃さがよく分かりました」と感心しつつお母さん

## 元気に運動会

若草くるみ保育園の秋の運動会が10月17日、志津南小学校体育館で行われました。「元氣 いっぱい 運動会」をテーマに、笑顔いっぱい、元

## やすらぎ学級で花鳥園へ

志津南やすらぎ学級は、10月28日、館外研修として、神戸ポートアイランドにある神戸花鳥園に行きました。台風20号が足早に通り抜けた当日、文字通り台風一過の抜けるような青空となりました。30人の参加者は定刻9時に



公民館を出発、車窓から少し早い紅葉を楽しみながら、神戸花鳥園へ。南口より園内に入り、まず目に入ったのは、南口ビーム多目的広場の花、花、花、ベゴニアゾーン二千鉢の吊り花、その美しさに全員感動。今日は神戸行きということで、朝早くから入念に手入れしてきた女性群も一言の言葉もなくこの美しさには負けました。昼食は、花の下でのバイキング。食も進み、皆さんご満悦。食後は、園内自由散策、たくさん花、鳥、魚などごふれあい、楽しいひと時を過ごしました。例のごとく、帰りにはお土産を両手に全て時間厳守、無事館外研修を終えました。（やすらぎ学級 奥田隆二）



- 11月21日(土) 健康ウォーキング 8:45 若草中央公園集合 教養文化講座 10:00 「そば打ち」講座
- 11月22日(日) 一斉清掃・消火訓練 8:30 中央児童公園集合
- 11月24日(火) 地域サロン: 懐メロを歌う会 10:00~11:30
- 11月25日(水) やすらぎ学級13:30~17:00
- 11月27日(金) 公民館一斉清掃・消防訓練 9:00~11:45
- 11月28日(土) 社会奉仕 8:45 若草中央公園集合 教養文化講座 10:00 「そば打ち」講座
- 12月2日(水) 教養文化講座「古今東西」 9:00~12:30
- 12月4日(金) 定例健康相談日 9:30~12:00 市健康推進課
- 12月5日(土) 健康ウォーキング 8:45 若草中央公園集合
- 12月8日(火) 地域サロン: 懐メロを歌う会 10:00~11:30
- 12月12日(土) わんぱく南っ子・協働合校 9:30~12:00
- 12月14日(月) ふれあいバスツアー ボランティア泉

印の会場は志津南市民センター(公民館)です

「滋賀教育の日」プログラム多彩に



堂々と音楽劇を熱演

4年生が芸術創造館で

学校を公開し地域とのかかわりを深めることを目的に...

ふれあいコンサートは10月21日、しが県民芸術創造館で行われ、志津南小学校4年生45人が本格的な舞台で音楽物語「こわれた千の楽器」を披露...

プロの演出家や音楽家の協力を得ながら7月から練習を始め、前日にはリハーサルも行い、万全の態勢で発表に臨みました。

物語の通り、児童たちは全員で協力し合って力を出し切り、「挑戦したことのない楽器に挑戦できた」「前は苦手だったけど上達した」と満足気な表情を見せました。

「滋賀教育の日」志津南小プログラムの一つ、文化庁委託事業「文化ボランティアフォーラム2009 in 滋賀」が10月19日、同校で開かれました。



プロの方たちが「美女と野獣」など7曲を演奏、会場に心地よい感動を与えました。

文化フォーラム多彩に

嘉田知事らが特別講師に

県知事が4年生に「昔の人々のくらしから、水を大切に知る知恵」と題して、また馬場忠雄滋賀医科大学長が5年生に「いま生きているわたしを感じよう」と題して、それぞれ地域住民も交えて特別授業を行いました。

また1年生の「おおきなかぶ」のおはなしえざらをつくる。では、毎週火曜日の朝、一階の多目的ホールで子どもたちに読み聞かせ活動をしているボランティアグループ「ぼっかぼか」と県立陶芸の森が協力して、国語の教科書に出てくる「おおきなかぶ」の写真を題材に白いお皿に釉薬入りのバスTELで絵を描く学習をしました。

そば打ち講座 地域の名人によるそば打ち講座の受講生を募集します。日時 11月28日(土) 10時~13時。対象 地域活動に関心のある志津南地区の男性(先着15人)。

来月19日に ミュージックソン 年末恒例の「ふれあいミュージックソン2009」が12月19日(土)に志津南市民センターで開催されます。

中庭で「ぼっかぼか」の劇のお話を聞いたあと、陶芸の森学芸員の宮本ルリ子さんから「お皿に自分を入れて、大好きな場面を描いてみよう」と声をかけられた子どもたちは、宮本さんから手伝ってもらいながら絵皿を完成させました。

お皿は後日焼き上げられ、子どもたちに届けられることになっています。



練習が大詰めを迎えているからだ。今年で9回目を迎える発表会は、歳児(小学校低学年が5人、小学生以上が20人という構成で、全員女性、中に高校生もいる。練習は毎週金曜日午後6時から9時までの3時間。年齢層別に行われる。指導には三村さんと、クラシックバレエをしている娘さんの依子さんの2人で当たる。両先生とも指導は厳しく、叱り飛ばすことも珍しくない。「先生、怖いかな?」「うん」「お母さんとどっちが怖い?」

公民館のホールに軽快なロックミュージックが流れる。子どもたちがそのリズムに合わせて目一杯、手を伸ばし、足を伸ばす。

それまで2年に一回だったのを「一年の成果を見たい」との思いつきから毎年行うようになった。12月19日の「ふれあいミュージックソング」にも出演する。

「もつと笑って」「つま先を伸ばして」。指導する三村奈緒子さんの叱声が飛ぶ。小さなダンスが懸命に応えようとする。なかなか厳しい風景である。それもこれも今月(11月)28日にしが県民芸術創造館で行う年一回のダンス発表会を控え、

「お母さん」。最近、叱る親が少なくなっていることを案ずる三村さんはこれを聞いて安心する。お母さんからは「もつと叱って」という声も聞かれるそうだが、最初は手の上げ方、足の上げ方から始める。が、叱ることに変わりはなく、叱る効果は踊りの上達、一緒に踊る仲間たちとのコミュニケーションづくりにも表れているという。

ジャズダンス レインボードリム

激しく、しなやかに

練習は続く。発表会プログラムの念頭に、演目に沿ったパフォーマンスが次々試される。一人ひとりの動きに目を光らせ、時間を手エックしながら三村さんはメモを取り続ける。舞台照明などのコンテをつくるためだ。

小道具から衣装まで全て手づくりの晴れ舞台は、すぐそこに迫っている。

練習は続く。発表会プログラムの念頭に、演目に沿ったパフォーマンスが次々試される。一人ひとりの動きに目を光らせ、時間を手エックしながら三村さんはメモを取り続ける。舞台照明などのコンテをつくるためだ。

小道具から衣装まで全て手づくりの晴れ舞台は、すぐそこに迫っている。

発表会を前に練習にも熱がこもる



大人だけの「お母さん」。最近、叱る親が少なくなっていることを案ずる三村さんはこれを聞いて安心する。お母さんからは「もつと叱って」という声も聞かれるそうだが、最初は手の上げ方、足の上げ方から始める。が、叱ることに変わりはなく、叱る効果は踊りの上達、一緒に踊る仲間たちとのコミュニケーションづくりにも表れているという。

子どもたちに聞いてみた。6歳から始めたという浅野夏美ちゃん(小3)は「踊るのも、みんなと話すのも楽しい。大きくなっても続けたい」と笑顔で話す。また京都から通う高坂汐里ちゃん

現在、5歳児(小学校低学年が5人、小学生以上が20人という構成で、全員女性、中に高校生もいる。練習は毎週金曜日午後6時から9時までの3時間。年齢層別に行われる。指導には三村さんと、クラシックバレエをしている娘さんの依子さんの2人で当たる。両先生とも指導は厳しく、叱り飛ばすことも珍しくない。「先生、怖いかな?」「うん」「お母さんとどっちが怖い?」

練習は続く。発表会プログラムの念頭に、演目に沿ったパフォーマンスが次々試される。一人ひとりの動きに目を光らせ、時間を手エックしながら三村さんはメモを取り続ける。舞台照明などのコンテをつくるためだ。



公民館に菊香る

色とりどりの菊花が10月下旬、志津南市民センター(公民館)の玄関に咲き並び、来館者の目を楽しませています。

この菊花は、白、黄、薄紫などの大輪と懸崖の10鉢。若草三丁目の前田さんが丹精込めて育てられた一部で、毎年この時期に飾られます。

チャレンジスポーツ中止

11月23日(月)に予定されていたチャレンジスポーツデーの全ての競技が中止されました。

県全域に新型インフルエンザ警報が出され、草津市でも猛威をふるっていることから市教委が中止を決めたものです。(志津南地区体育振興会)

折々の記

5年ほど前に草津市の各町内会を対象に「犬の散歩」を認めるか、「犬を立ち入り禁止にするか」アンケートが行われたことがある。その結果、80%が立ち入り禁止にし、その旨の看板が設置された。

フン害に憤慨

志津南地区は、犬を飼っている人のモラルの問題であり、立ち入り禁止までしないことになった。だが、相変わらず若草中央児童公園やその他の児童公園、児童遊園では犬等の糞の放置が多く見られ、不衛生極まりないのが現状だ。

志津南地区は、犬を飼っている人のモラルの問題であり、立ち入り禁止までしないことになった。だが、相変わらず若草中央児童公園やその他の児童公園、児童遊園では犬等の糞の放置が多く見られ、不衛生極まりないのが現状だ。

ボランティアの手による草刈(衛生的な公園を願う住民)